

関東大震災 97 周年 中国人受難者追悼式へのご挨拶

福建遺族聯誼会（準）

尊敬する日本のみなさん、

新型コロナウイルス感染症のために、今日東京で行われている「追悼式」に、私たち「1923年関東大震災受難華工福建遺族聯合会（準）」の遺族たちはみな東京に赴くことができません。東京、それはかつて私たちの先祖に加害を加えた地で、一年に一度の追慕し追悼する場ですが、こうして一枚の書面を林伯耀先生に託して挨拶を送り、深い遺憾と哀悼の意を表するものです。

97年前の9月1日、日本の関東地方で大地震が発生し、巨大な災難が襲いかかりました。しかし、日本軍国主義は、在日の中国人避難民に救援の手を差し伸べないどころか、かえって、刃物をもって私たちの先祖を含む中国人労働者に襲いかかり、世界を震撼させる『東瀛惨案（関東大震災虐殺事件）』を起こしました。

97年の時間が経過したとはいえ、私たちは、身内として、私たちの先祖が当時被った苦痛と狼狽、絶望を感じ取ることが出来ます。今日私たちが耐えがたいこの歴史を振り返るのは、恨みのためではなく、歴史の事実に向き合い、それを後世の歴史的教訓とし、その轍を踏まないようにするためです。中日両国人民が悲惨な流血の苦しみをもう一度繰り返すことなく、平和をつくりあげ、平和を享有し、平和を祝福しましょう。

このことを念頭において、私たちは日本政府に以下の要求をします。

1. 国家的責任において、歴史的事実を認め、被害劳工と遺族に謝罪すること。
2. 1924年の日本政府の賠償決定にもとづき、それを国際慣例に従って物価水準、人数を修正して賠償を実現すること。
3. 歴史を鑑とし、この歴史事実を伝えるために加害の地に記念碑および記念館を建設すること。
4. 日本の歴史教科書に書き込み、日本の若い世代に歴史を伝え、教訓を汲み取り、平和の大切さを教えること。

私たちは、真相を明らかにし、虐殺の歴史を清算することによってのみ、中日両国の明るい未来を築くことができると思います。

林伯耀先生と日本の友好人士に感謝します。日本社会各界のご協力に感謝します。血塗られた「東瀛惨案」に遭われた先祖の皆様 安らかにお眠りください。

2020年9月6日 中国福建において

1923年関東大震災受難華工福建遺族聯誼会（準） 代表陳興斧

